

# 春田がいく!



## 活動日誌

### フューチャーセンター in 四国 ～私が変われば未来が変わる、四国発！コミュニティ構想会議～

開催日：平成23年5月9日(於/玉藻公園披雲閣大書院)  
主催：NPO法人ソーシャルベンチャー四国

フューチャー(未来)センターとは、欧州発祥の組織開発の方法で、利害立場を超えて同じ目線で対話を重ねることで、中長期的な課題解決の「きっかけづくり」を目的としています。東日本大震災以降、改めて「対話」が持つ可能性が注目が集まっていることを認識し、ポブ・スティルガー博士と八木陽一郎氏(香川大学大学院准教授)をファシリテーターとして、地域コミュニティの可能性と方向性を探求しました。企業人から行政マン、市民活動家など様々な立場の方が多く集まり、互いの違いを認め合いながら自分は何が協力できるのか? そんな探求の場が生まれました。



### コミュニティデザイナーと地元愛を考える

開催日：平成23年7月22日 主催：観音寺商工会青年部  
講師：山崎亮氏(株)studio-L代表取締役・京都造形大学教授)

テレビ「情熱大陸」でも紹介された、今話題の「コミュニティデザイナー」山崎亮氏の講演会に参加しました。今、この場所に必要な人と人を繋げること、同じ問題意識をもった人達が集まることでコミュニティの「絆」をどうデザインするか。東京ディズニーランドのキャストの存在を見つめ、鹿児島島のマルヤガーデンスなどの事例を通して、市民が公共空間を楽しんで使うこと、ゲストとして訪れるのではなく、キャストとして楽しんでお客様を迎える仕掛け作りの大切さを学びました。



この成果を9月議会でも市民との協働推進について質問しました!

### 福祉切捨てと言われない改革を! PHP公共経営セミナー「事業の複合化・統合化による効率化と経費削減」

開催日：平成23年8月12日(於/東京)  
講師：南学氏(神奈川大学人間学部特任教授)、小瀬村寿美子氏(厚木市協働安全部人権男女参画課長)

紙おむつやバス乗車証の給付など高齢者への給付事業費は急増し、自治体財政を圧迫しつつあります。また、小児医療費助成、保育への待機児解消など、児童への給付・対応事業費も増加の一途にあります。さらに、公共施設も個々の目的に応じて建設・運営されており、管理運営費は利用料徴収額に比して多額になっています。これらの負担をどう圧縮するか。「福祉切り捨て」と言われがちな従来型の個別削減手法を見直す手法を学びました。総量抑制の方法としては、個別ニーズ対応からカフェテリア(選択)方式に変えること。自治体の事業総点検の視点は、①行政ビジョンの再確認、②目的に合致しているか、③効果の検証、④適正な受益者負担、⑤重複は無いか、⑥将来にわたるフルコストの試算、⑦公共施設は全体の最適化、⑧出資法人などへの委託の適正化、⑨依存型市民を養成していないか、⑩信頼できるデータ・根拠に基づいた論理的思考が重要とのことでした。

この成果を9月議会でも事業仕分けについて質問しました!

相談やお気づきの点がありましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。党員に限らず、どなたでも結構です。

- 日々の活動は「春田のブログ」<http://haruta.ptu.jp/blog>をご覧ください。
- facebookは<http://www.facebook.com/keishi.haruta> ■つぶやきは<http://twitter.com/KHaruta> ■携帯で読むにはこちら →



## 春一番 - 編集後記 -

この記事を書いているときに、二人の変革者がこの世を去りました。ひとりにはスティーブ・ジョブ氏です。アップル社の創設者であり、芸術と技術を融合させ、世界に大きな変革(イノベーション)をもたらしました。スタンフォード大学の卒業式での自身の臨死の体験を通して、一日一日の大切さを語られた素晴らしいスピーチの結びの言葉 "Stay hungry, stay foolish." (ハングリーであれ! 愚か者であれ!) 命に刻み込まれました。もう一人はワンガリ・マータイ氏です。環境保護運動や民主化への取り組みが評価され、ノーベル平和賞を受賞した初のアフリカ女性です。『何かを変えたい』と思うのであれば、まず『自分自身から』変えなければならない。と語られ、「個人がまず、身近な生活から変えていくことは、今、この瞬間からでも出来ることです。」人の振る舞いが大きな変革を果たすことを示された二人の生き様に触れ、私も価値ある人生を歩みたいと誓いました。

## 活動実績

平成23年4月～9月	
4月7日	つるうち保育園入園式 参列
8日	勝賀中学校入学式 参列
12日	弦内小学校入学式 参列
13日	つるうち幼稚園入園式 参列
24日	高松市議会議員選挙投票日
26日	当選証書授与式
5月9日	フューチャーセンター in 四国 出席
11日	塩江こども園 視察
22日	弦内小学校運動会 参列
31日	西宮市・被災者支援システム 視察
6月1日	勝賀中学校運動会 参列
4日	御殿ふれあい祭り 参列
7日	高松市適応指導教室「虹の部屋」視察
16日	芸術士勉強会
23日	新病院等整備特別委員会
27日	青少年育成部会総会 参列
28日	第三回高松市議会(定例会) 開会
7月12日	第三回高松市議会(定例会) 閉会
14日	自治政策講座 in 横浜 出席
22日	観音寺「コミュニティ・デザイン」講演 参加
31日	豊島ゼミ 出席
8月2日	定住・自立圏懇談会 出席
3日	経済環境調査会 出席
4日	三豊総合病院 視察
12日	PHP・公共経営セミナー 出席
14日	高松まつり総踊り 参加
17日	教育民生調査会 傍聴
18日	経済環境常任委員会 出席
19日	夜学会 参加
20日	女木島「シノミカタ」ワークショップ 参加
25日	高松市こども議会 傍聴
26日	高松競輪 視察
30日	第1回高松市民病院をよくする会 傍聴
9月6～20日	第四回高松市議会(定例会) 開会
18日	日比野克彦「一昨日丸」シンポジウム 参加

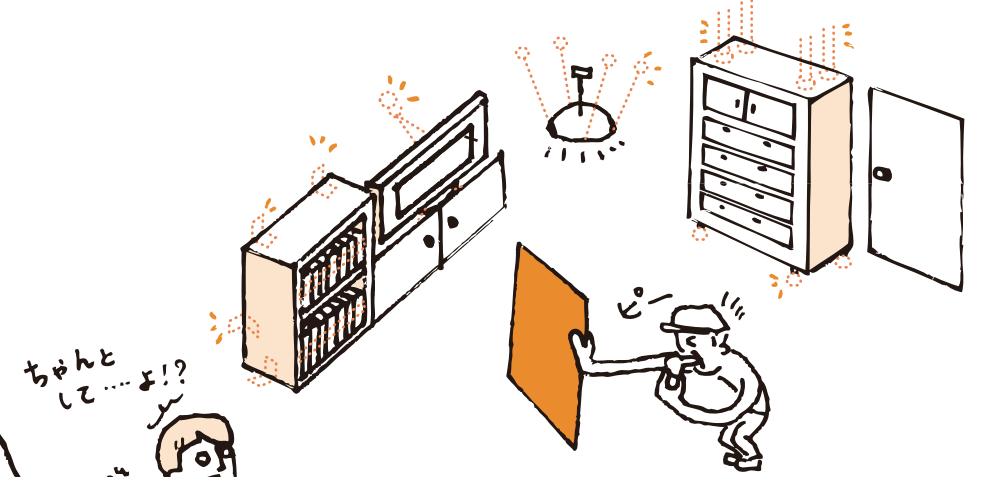
市民相談件数 **71** 件 / 相談累計 **499** 件

## 会計報告(政務調査費)

経費の区分	金額
1 研究研修費	257,729
2 調査旅費	15,335
3 資料作成費	4,867
4 資料購入費	73,099
5 広報費	0
6 広聴費	0
7 人件費	0
8 事務所費	57,780
9 その他	0
合計	408,810 円

平成23年4月～9月  
高松市の政務調査費は議員一人当たり年額120万円の予算を計上しています。平成20年度からは政務調査費用は情報公開となり、全議員が1円から領収書を添付して報告することになっています。残額は翌年度5月に返納することになっています。

# Q 高松の災害への備えは大丈夫?



東日本大震災以降、「想定外」を無くすために高松市では、地域防災計画の見直しを行っています。でも一番大切な、自分の命は自分で守る! この大前提がまだまだ整っていません。 **A**

## 高松市議会議員「春田敬司」と高松の明日を考える。VOL.08

2011.October

# 春風 PRESS

生活者の一番近くで、動く、働く。

## 【春田敬司への5つの質問】

### Q 東日本大震災から学ぶべきことは?

**A** 非難命令を聞いてどんな行動をしたのか?生死を分けた行動は、日頃の心がけが結晶化されたものです。若手県営石東中学校の奇跡の高台避難が象徴化されています。でもこれは奇跡でも偶発の産物でもありません。「人は心理的に、逃げる人がいればまねをする」という専門家の指導のもと、地震が来たら最初に逃げる「率先避難者たれ」との5年前から培われた防災教育が実を結び、地域の住民や小学校の生徒までも救うことになったのです。備えあれば憂い無し。でもそれ以上に大切なのは、懸命に助け合いながら生きていくこと、遠くの地域から駆けつけたり励ましを送ったりしあえる人と人の繋がりが「絆」かもしれません。

### Q 「事前復興」って何?

**A** 阪神・淡路大震災の復興過程を教訓に、災害が発生した際のことを予め想定し、被害の最小化につながる都市計画やまちづくりを推進することを「事前復興」と言います。被災してから復興をするのではなく、復興の進め方と目指すべき目標像を今から準備し、事前に公表して市民と共有しておくことを重視する考え方で、近年ますます重要度が高まってきています。「事前復興」の観点では、被災して灰塵に帰してから対策・復興を行うより、10年間かけて「復興市場」を作り出し先行投資する方が、復興に要するトータルコストは半減できると思います。ちなみに高松市は、まだまだこの「事前復興」の認識ができていません。

### Q 何から始めればいいのか?

**A** 防災は「防ぐ」からではなく、まず「災害を知り理解すること」から始めるのが大切です。「私の寝室の家具は倒れてこない?」「私の住む地域にはどんな災害が想定されている?その深刻度は?」など、知らないで備えようがありません。今は大地震に関心が高まっていますが、災害は地震だけではなく、身近な川や山の危険性を失念していませんか?台風の大型化やゲリラ豪雨などが発生することも想定して、まずは一人ひとりが「どのタイミングで」「どこへ」避難すべきかをきちんと把握することが大切です。  
★高松市では防災マップを作成し、ホームページからでも見られます。  
<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/>

### Q 地域でできることは?

**A** 「住民の“まちづくり活動の熟度”によって復興の進捗に差が出る」。このことは阪神・淡路大震災や東日本大震災によって証明されています。そのためには地域で「これからわが町はどのようなまちづくりをするのか」、もし災害が起こったら「どんなまちに復興するのか」という目標を共有すること、「復興のグランドデザイン」が重要となります。現在の大地震の被害想定によると、香西地域などは建物の倒壊が多い「古い建物の密集」と「津波による浸水」がダブルで想定されています。このような地域は過去の災害からみても、建物の倒壊と火災による甚大な被害が想定されます。財源が厳しい中、行政はこうした被害想定を踏まえて、耐震化や不燃化などを支援しなければなりません。また現在、各地域で自主防災の組織づくりを推進していますが、平日頃の自治会活動を超えた防災活動はなかなか継続できません。まずは自治会の行事に連動させるなど、一過性に終わらない取り組みを目指して、春田も一緒に汗をかきたいと思えます。



Profile  
春田 敬司 昭和42年2月23日、兵庫県神戸市生まれ。国立高松工業高等専門学校機械工学科卒。(有)ジャストブレイン代表取締役(経営コンサルタント)。  
平成23年4月高松市議会議員2期目当選。妻と中学校3年生、1年生、愛犬1匹の5人家族。愛読書は「三国志」、「永遠の都」。ポリシーは「認識せずして、評価せず」。

## 春風 PRESS VOL.08

発行者：高松市議会議員 春田敬司  
発行日：2011年10月  
連絡先：〒761-8013  
高松市香西東町14番地8  
TEL : 087-842-5730



10分で分かる🕒

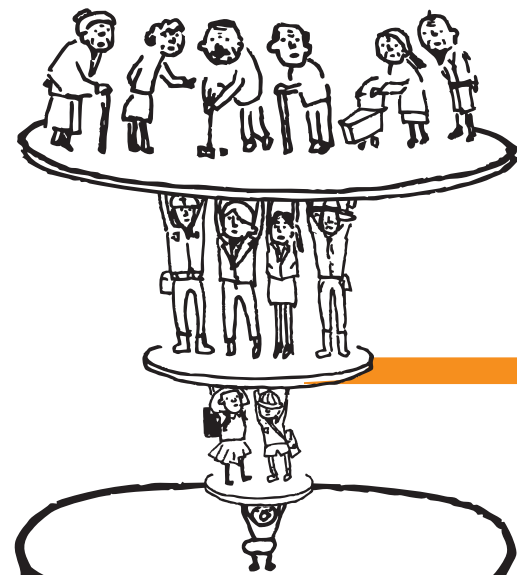
# 高松市の 介護&医療 事情

## 老後の不安を解消することが大事！

「入院して3ヶ月を過ぎたら退院させられるが、家では看ることが出来ず困っている」「施設になかなか入れない」、こんな市民相談が本当に多く寄せられます。今後、世界に類を見ない超高齢社会にどう立ち向かっていくべきか、財源論や死生観も含めて、医療全体のあり方も見直さなければなりません。2025年には日本人の年間死亡者数は、現在の約1.5倍の160万人になると予測されています。一人の患者が数回罹患するとすれば、患者数は2～3倍になることは必定であり、病院病床、介護保険施設、居宅系施設等のさらなる整備を急がなければなりません。また、在宅療養者の急増も見込まれることから、在宅医療の推進・充実も大きな課題です。

さらに国では、介護保険・医療保険の財源や、医師・看護師など限られた人材の効率的な活用の観点から、療養病床から介護保険施設等への転換・再編成を促進させる方針が示されており、高松市ではこの養病床の削減に対して、老人保健施設への転換や、地域密着型サービスの適正な配置と利用促進をうたっています。またサービスを支える人材の確保や資質の向上を課題として挙げています。

一方、介護施設等の整備状況を見てみると、高松市は中核都市40市のうち、特養6位、ショートステイ2位、ケアハウス3位と、いずれも上位にあることがわかりました。ところが高松市の特別養護老人ホームの待機者は155人。私は特養への入所を希望している人が1,774人いて、真の対象者が155人というギャップにも問題点を感じます。これらの数字は、これだけ施設整備が進んでいるにも関わらず市民には「施設に入れない」との不安が広がっていることを意味するのではないのでしょうか。



少子超高齢化

医療費の増大

来年度から健康保険、介護保険がアップ?!

療養病床の削減

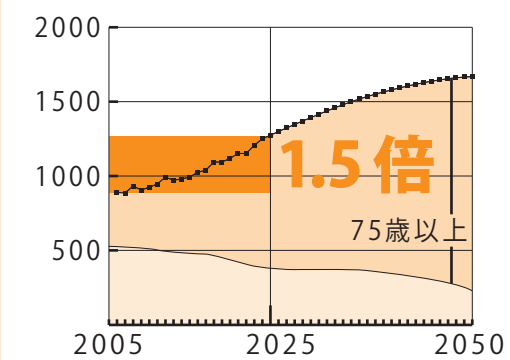
療養が必要でも、3カ月以上、入院できない。(以降は在宅介護)

## 医療全体の見直し

2025年には  
**死者が1.5倍**  
(160万人)

患者数が  
**2～3倍に**

死亡数の推移



どうする?!

施設の病床数、  
介護保険・居宅系施設  
在宅介護の対応が  
**足りない?!**

# 不安

## 施設は充実しているはずなのに、 「不安感」が入所希望者を必要以上に増やしている。

●高松市の施設設備の状況(中核都市の中で)

特別養護老人ホーム **6位**  
ショートステイ **2位**  
ケアハウス **3位**

●特別養護老人ホームの入所希望者数

**4,084人**  
重複分を除くと  
**1774人**  
緊急性が低い人を除くと  
**291人**  
要介護2以下と既入所者を除くと  
**155人**  
正味の待機者



## 平成23年第4回高松市議会(定例会)での 春田の質問内容(9月14日)

### 一般質問の要旨

1. 市民との協働推進について
2. 事業仕分け(テーマ型・県と一緒に)行う
3. 事前復興について(復興基本条例・復興対策会議の創設)
4. 災害の被害想定に応じたまちづくりの支援
5. 未婚世帯の保育料減免
6. 救急医療体制の充実
7. 地域在宅医療の体制整備(在宅医療相談調整窓口の設置)
8. 療養病床削減への対応
9. 四国内の観光サービスの地産地消

皆さんの声から実現します！

## 未婚世帯の保育料が減免！

今年の5月に「同じシングルマザーなのに結婚していないという理由で保育料の減免を受けられないのはおかしい」との市民相談を受けました。調べてみると、所得税法の寡婦控除では未婚者は対象外ということがわかりました。保育料の算定には、この「所得税額」又は「住民税の課税状況により」算定されるので、相談者のようなケースが起ってしまうのです。相談を受けた当初は「所得税法」の問題なので、市のレベルでは対応できないとあきらめようとしたのですが、よくよく調べてみると、松山市や岡山市では「寡婦控除のみなし適用」をしていることがわかり、議会で質問し、市長から実施する考えを得ました。

9月議会での議題から

## 一般廃棄物処理手数料が7%値上げ！ 差額の負担は市民に?!

議案第98号「高松市廃棄物の適正処理および再生利用に関する条例の一部改正について」一般廃棄物処理手数料を翌年4月1日から、100kgまで1,450円から1,550円に改定(7%値上げ)することが議決されました。本来、事業系ゴミの処理は事業者の責任(自己負担)で処分することが法律で定められています。それでも高松市では年間約11億円を一般会計から負担しているのです。「値上げは中小零細事業者の首を絞める!」と声高に叫ぶ議員もいましたが、実際、約8割の事業者にはあまり影響はありません。それよりもゴミ排出量の多い事業者や処分業者の負担を一般家庭が背負っているという事実を正しく認識しなければなりません。

\*高松市のゴミの収集量は平成21年度で、家庭系が97,150トン・事業系が56,930トン合計で154,080トン

## 高松市に今、 必要なのはこれだ！

### 提案1

## 在宅医療を支える体制づくり

医療が必要な高齢者が、病院等を退院し、住み慣れた自宅でその人らしく暮らせるよう、円滑に地域での在宅医療へ結びつけるしくみや、安心して在宅医療を受けられる支援体制が求められています。そのためには、医師のグループ化や多職種によるチーム化が必要であり、関係機関相互の調整や研修・勉強会の開催、市民に対する啓発などが必要になります。そこで私は、まず「専門知識を習得した看護師などを中心とする、コーディネート機能を備えた窓口設置」を求めました。

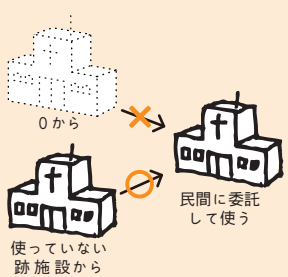


先進事例:東京都杉並区の「在宅医療相談調整窓口」

### 提案2

## 介護療養病床・医療療養病床の削減への対応

今後は、基礎年金だけでも賄えるような低価格の施設へのニーズが高まると予想されます。施設の建設コストは即、利用料金として利用者に跳ね返ってきます。できるだけ既存ストックを活用し、コストを低減させることは大事な取り組みです。私は市民病院や香川診療所が使用されなくなった跡施設を民間に委託し、療養病床削減からの受け皿として活用することを求めています。



先進事例:京都府の「高齢者あんしんサポートハウス」

## 新病院「人間ドックの廃止案を撤回」

平成26年度に仏生山地区へ移転計画中の「新市民病院」のあり方について、議会では議論が白熱しています。今年4月、経営改革を推進し、柔軟な経営ができる体制を供えた新しい事業管理者が誕生しました。新事業管理者からは、①急性期病院(発症間もない患者に一定期間集中的な治療を施す病院)として医療機能を高め地域医療に貢献する、②限りある医療資源を有効活用しながら独自性を発揮する、③地域の医療機関や福祉施設等との連携と機能分担をより強化するとの方針のもと、早速、新病院整備計画について変更案が提示されました。一方、市議会からの反対で「人間ドックの廃止案を撤回」するなど、まだまだ新病院の今後から目が離せません。